



「ナイス、チャレンジ！」

主幹教諭 佐藤 幸浩

「たくさん失敗してくること！」

サッカーの指導者をしていたころ、試合前に意識的にかけるようにしていた言葉です。そして、試合終了後は、「どんな失敗してきた？」と子どもたちに問いかけるようにしていました。

きっかけは、アップル創業者スティーブ・ジョブズの話です。彼は学校から帰ってきた子どもに「今日はどんな失敗してきたの」と聞いていたそうです。子どもたちは、親がそんな事を毎日聞いてくるのですから、何とか失敗してこようとしていたはずです。そして、そのために、今までやったことのない新しいことに挑戦していったはずです。

「失敗を恐れず、新たなことに挑戦すること」これがジョブズの願いだと思います。

「ドリブルで抜けなかった」「ターンしようとしたら、トラップがずれてしまった」

サッカーチームの子どもたちも、試合を見ていた私でも気づかないようなたくさんの失敗をしていたことを教えてくれました。そんな失敗した子どもたちを無条件で褒めるようにしていました。失敗したことを褒めるのではありません。チャレンジしたことを褒めます。

「ナイス、チャレンジ！」

そして、練習では強度を上げ、子ども自身が課題をもって取り組めるような集団を目指しました。

失敗したい人間なんてほとんどいないと思います。失敗は恥ずかしいですし、怖いものです。ただし、成長するためには、新たなチャレンジが必要であり、新たなチャレンジでは失敗は避けて通ることはできません。「失敗は成功のもと」とは、よく言ったものです。今、担当している算数の授業でも、このような声かけを意識しながら、子どもが安心して失敗できる環境を目指しています。「間違えてもいいよ」と声をかけると手を挙げる子が増えます。発表して間違えてしまった子には、「勇気を出して発表しただけで100点」「ナイス、チャレンジ」と声をかけます。そんな子がもう一度勇気を振り絞って手を挙げている姿を見ると、本当に嬉しい気持ちになります。

私も教員になりたての若手時代には多くの失敗をしてきました。それでも支えてくれた当時の同僚や保護者の方々には感謝しかありません。あと10年もすれば、子どもたちも自分の力で生きていくはずです。たくさんのチャレンジをして、大きく成長してくれることを願っています。